論　文

『儀礼』少牢饋食の祖先祭祀

池澤　優

本稿は拙稿「『儀礼』特牲饋食の祖先祭祀」（市川裕編『世界の宗教といかに向き合うか　月本昭男先生退職記念献呈論文集』第一巻，聖公会出版，2014年。以下，前稿と称する）に続いて，『儀礼』の祖先祭祀を扱う。『儀礼（ぎらい）』とは，儒教の経典（五経）のうち，いわゆる「礼」に属するもので，冠婚葬祭の儀礼マニュアルである。当初は「士礼」と呼ばれ，「礼」の経典でも最も正統的なものであったが，思想性が強くないために好まれず，後世には『周礼（しゅらい）』や『礼記（らいき）』が経典として扱われるようになった。その末尾，特牲饋食（とくせいきし），少牢饋食（しょうろうきし），有司徹（ゆうしてつ）の三篇が祖先祭祀の式次第であり，特牲饋食は「士」階級の，少牢饋食と有司徹は「大夫」階級の祖先祭祀を表す（士，大夫とは古代中国の身分であり，大夫は大臣クラスの上級貴族，士は軍隊の主力となる下級貴族を意味する。戦国時代以降はそれぞれ官僚と官吏を意味するようになった）。本稿の目的は，『儀礼』少牢饋食・有司徹の祖先祭祀を分析することで，その儀礼編纂者が何を表そうとしたのか，明らかにすることである。

（一）末永高康の『儀礼』研究

本論に入る前に，前稿刊行後に発表された末永高康「『儀礼』の「記」をめぐる一考察」（『東洋古典学研究』第三十九集，2015年）に言及しておく必要がある。それは『儀礼』諸篇の成立の過程を考える視点を明瞭にしたものである。

もともと戦国時代の儒家において，実際に身体を動かす「礼」の実践が行われ，次第に儀礼が詳細に規定されていったと思われるが，それが成文化されるのは戦国時代最末期であるらしい。『漢書』芸文志によると，漢初には「士礼」十七篇というテキストが存在した。一方，現在の『儀礼』は等質のテキストが並ぶのではなく，経，「記」，「伝」という区分がある。儒教経典では一般に「記」「伝」は経文に対する注記，解説であるとされる。但し，『儀礼』十七篇全てに「記」「伝」があるのではなく，またある篇では「記」に書かれる内容が別の篇では経文に書かれるといった不整合が存在する。更に，甘粛省武威磨咀子６号墓からは前漢末期の『儀礼』テキストの一部が出土しているが，そのうち燕礼，喪服，喪服伝，特牲饋食には「記」に相当する文章はあるが，「記」という表記はない（現在のテキストでは経文の後に「記」として「記」の文章を挙げる）一方，燕礼では「凡千四百七十二字」「記三百三文」と，経文と「記」で別々に文字数を数えている（喪服，特牲饋食は経と「記」を含めて文字数を記載する）。このことは，経，「記」，「伝」が『儀礼』テキスト成立の過程を反映していること，ある段階まで経と「記」には区別がなかったこと，前漢末期には経と「記」を区別する意識が既に成立していたことを示す(1)。

このため，「記」の考察を通して『儀礼』の編纂過程を探ろうとする研究は今までにも存在した。田中利明「『儀礼』の「記」の問題―武威漢簡をめぐって」（『日本中国学会報』第十九集，1967年）は，「記」を経文で述べる儀節の補足である「直接的な記」と，経文とは異なる状況でのバリエーションを述べる「間接的な記」に分け，前者は元来は口承されてきたものが次第に忘れられるようになったので「記（しる）」したのであるとする。それに対し「間接的な記」は経にあることも「記」にあることもある。それは「経」と対等の儀礼であったが，成文化されるときに一部は「直接的な記」と合わせて「記」に入れられた。一方，士冠礼では「直接的な記」と「間接的な記」が共に経に入れられ，「記」は「冠義」，即ち儀礼の思想的意義を述べるもので，しかも同じ文章が『礼記』郊特牲にも見られる。これは別に存在していた文章を「記」に組み込んだために，本来「記」に入るべきものが経に組み込まれたのであり，次第に儀礼の内容が詳しくなる発展過程のプロセスで，それぞれの状況に応じて経と「記」の違いが生じたことを意味している。

また沈文倬「略論礼典的実行和《儀礼》書本的撰作」（『文史』第十五・十六輯，1982年）は，「記」は儀礼の意義を論じるもの，儀式のバリエーションを記すもの，器物や物品の差異や数量を詳述するもの，儀式における言葉（せりふ）を記録したものなどに大別することができるが，同じ要素でも篇によって経に属したり「記」に属したり，両者の区別は明瞭ではない。つまり，経と「記」は最初から区別されていたのではなく，連続するテキスト成立過程で生じたと論じる。

それらの説によりつつ，末永は同じ要素が篇によって経に属したり「記」に属したりするのは，各篇の成立時期が異なり，経を記述する者の意識に変化が生じたことを反映すると考える。例えば，士冠礼，士昏礼では口上（せりふ）が「経の本体」に含まれず，まとめて置かれているが（前述のように，士冠礼ではせりふは「記」には入れられていないが，経の末尾にまとめて置かれる），それは両篇の作者がせりふを不可欠なものと考えていなかったためであろう。それに対し，せりふを記録する士冠礼，士昏礼の「記」（もしくは付加的部分）と，経にせりふを含む特牲饋食や少牢饋食の作者は，共にそれを必要なものと考えていたのであり，『儀礼』成立プロセスの中で同じ段階のものと考えることができる。更に，特牲饋食，少牢饋食では，口上においても，儀節の描写についても簡繁の程度に差があり，後者の方が遅れると考えられる。つまり，1a)『儀礼』各篇の成立は同時ではなく，より遅れる篇は先行する篇を参照して作られた。1b)よって，遅れて成立した篇の方がより詳しくなる傾向がある。2)各篇の経の成立後，その完備化は各「記」によりそのまま受け継がれた。これは『儀礼』テキストが「士礼」を出発点に次第に作られていったこと，その完備化は儀礼の細部の補足（「直接的な記」）と，多様な状況に対応する儀式の設定（「間接的な記」）の両方で展開していったことを示す。

問題は，篇による簡繁の違いは儀式それ自体の違いなのか，テキストの違いに過ぎないかである。もし儀式それ自体は整っており，たまたまテキストにそれが記されておらず，それを「記」で補ったということなら，儀式それ自体には変化はない。しかし，士虞礼（喪礼における埋葬後の祭祀）の経では書かれていない犠牲の向きが「記」では書かれており，しかもそれは特牲饋食とは逆にされている[(2)]。もし，その儀節が最初から存在したなら，そのような重要なポイントを省略するとは考えにくい。ということは，最初は明確な規定が存在していなかったが，儀礼の細部が意識されるにつれ，その部分も詰められていったのであろう。儀礼の変化は持続的であり，成文テキストの成立とはその変化をどこかで打ち切り，固定化するということである。戦国時代

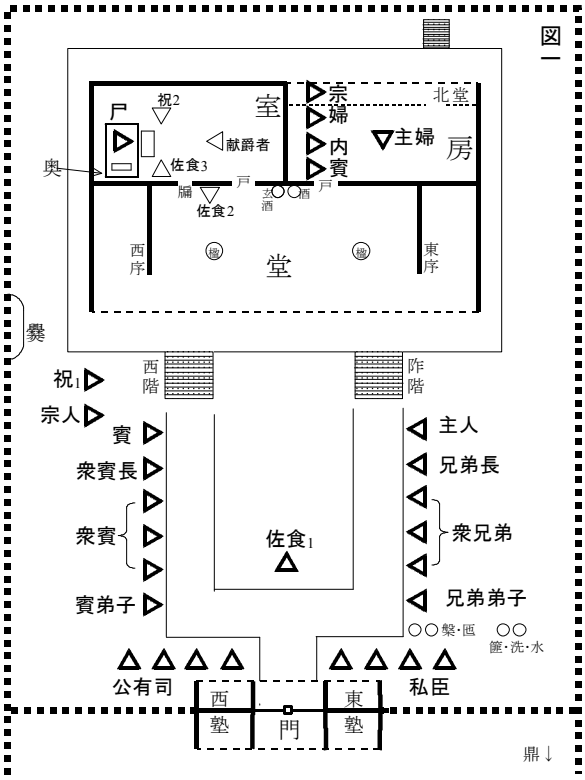
末に『儀礼』テキストは成立していたと考えられるので，その固定化は戦国時代と考えざるを得ない。もちろんテキストが固定化した後も，儀礼は変化し続けるが，それは例えば『礼記』諸篇のような解釈行為として表現されたと考えられる。

末永の論は，『儀礼』の形成過程に対する基本的な考え方として首肯できる。そして，その視点を用いるなら，儀礼の構成者が先行する要素をどのように利用し，何を表現しようとしたのかを理解することが可能になるであろう。本稿では基本的にこの視点を用いて，少牢饋食の祖先祭祀を考えたい。

（二）『儀礼』特牲饋食の要約

末永も論じていたように，同じ祖先祭祀として少牢饋食と特牲饋食は密接に関係していると考えられる。そこで次に前稿での議論を簡単に要約しておきたい。

特牲饋食は士階級の祖先祭祀である。特牲とは犠牲一匹（ここでは豚）のこと，饋食とは生人と同様に煮炊きした食事を供えるという意味である。『儀礼』の祖先祭祀の特徴は，祖先を位牌で象徴するのではなく，尸（かたしろ）という祖先役を務める者を同族中（祭祀対象者の孫の世代とされる）から選び，その者が実際に飲食する点にある。特牲饋食の祭祀のシナリオの要点は以下のよう要約できる。



A．準備

祭日を筮占により決め，祭祀の三日前に尸を筮占で決め，尸と賓長に祭日を告げ，祭祀の前日の夕方，器具や犠牲の設定と点検を行う。祭日早朝に，門外で犠牲を殺し，門外の東で肉を，西堂下で黍稷を調理する。肉が煮えたら，鼎に入れる（豕・魚・腊の三つ）。尸の席を室の西南（奥）に設定する（基本的な位置設定は図一を参照のこと）。

B．陰厭（室内で神霊に酒食を供える）

尸の席に前に配膳を行い，觶（杯）を席の右に置き，祝（神霊と主人の間を取り持つ役）が主人の左で祝文を読む。

C．九飯（尸が室内で飲食する）

尸が入場，主人は阼階の下で出迎える。尸は西階から登り，室内の席に坐す。尸は觶を飲み，旨いと告げる。肉を食べ，三度飯を食べることを三度繰り返す。

D．三献（室内で，主人・主婦・賓の順に尸に献酒する）

《主人初献》主人は角（杯）を洗い，酒を酌んで，尸に献じる。尸は角を主人に酢（むく）い（返杯），嗇（しょく）（黍（きび）を搏（まろ）めたもの）と嘏（か）（授福の言葉）を賜わる。主人は嗇を左の袂（たもと）に入れ，角を飲みほす。主人は祝と佐食（給仕役）に酒を献じる。

《主婦亜献》主婦（主人の妻）が北面して尸に爵（杯）を献じる。尸は爵を飲みほし，主婦に酢いる。主婦は祝と佐食に酒を献じる。

《賓長三献》賓長（主賓）が尸に爵を献じる。尸は爵を置き，飲まない。

室内東方に西面に主人の席を敷き，主婦が主人に爵を献じる。主人が飲みほし，主婦は爵を受け取り，醋（むく）いる（自分で酒を酌んで，同じ爵で飲む）。次に房中に南面に主婦の席を敷き，主人が西面して主婦に爵を献じる。主人は爵を変えて醋い，室内に帰る。

尸は置いておいた爵を飲み，賓に酢いる。賓は祝と佐食，主人・主婦に爵を献じ，主人に酢いる。

Ｅ．衆賓と兄弟への献酒（堂上で主人が衆賓と衆兄弟に酒を献じる）

賓長は西階の上に北面，主人はその東に北面し，杯を献じる。賓が飲みほすと，主人は自ら酌んで酢いる。堂下，東面に賓長の座を設ける。以下，衆賓（主賓以外の賓（ゲスト））が順次，堂に登り，主人から爵を受ける。

堂下の阼階と西階の前にそれぞれ二壺を設置，主人は賓に觶（し）を酬（むく）いる（先ず自分が飲み，その杯で相手に薦める）。賓は觶を受け，座の右に置く。

同様に，主人は，堂上，阼階の上で長兄弟，衆兄弟（兄弟は同族者）に順次，酒を献じる。

主人は房中で内兄弟（女性参加者）に酒を献じる。

長兄弟，衆賓長が室内で尸に爵を加える。尸は衆賓長の爵を置いて，飲まない。

嗣（主人の跡継ぎ）が室内に入り，尸は觶（尸の席に置いてあった杯）を与え，嗣は飲みほす。嗣は觶に酒を酌み，尸に献ずる。

Ｆ．旅酬（中庭で衆賓・兄弟間で杯を酌み交わす）

《旅酬第一巡》兄弟弟子（一族中の若者）が觶を長兄弟に酬（むく）いる。賓長は阼階の前まで進み，長兄弟に酬い，次に長兄弟が西階の前まで進んで，衆賓長（賓長の次のゲスト）に酬いる。以下，衆賓と衆兄弟の間で，列座順（年齢順）にお互いに酬いあう。

尸は置いておいた爵を作（おこ）し，飲みほす。

《旅酬第二巡》次に長兄弟が賓長に酬い，賓長が兄弟に酬いの順でお互いに酬いあう。

《無算爵》兄弟弟子と賓弟子がそれぞれ觶を長兄弟と賓長に酬いる。その後は適宜，杯を酬いあう。室内では佐食が尸に酒を献じる。

Ｇ．尸退出（主人は室戸の外に西面，祝は東面して儀礼の完了を告げ，尸が退出する。）

Ｈ．蕁（しゅん）（嗣（主人の後継ぎ）・長兄弟の二人が尸の食残しを食す）

尸の席と反対の側に席を敷く。嗣（上蕁）は尸の席に東面，長兄弟（下蕁）はその反対側に西面で坐す。祝は「蕁は以（とも）にするあるなり」と命じ，両者は食べ，主人は爵を薦める。祝は「酳（すす）むるは与（とも）にするあるなり」と戒め，両者は爵を飲む。上蕁のみ爵を主人に酢（むく）いる。

Ｉ．陽厭（尸の俎を室の西北に移し，一尊（たる）を室内に入れ，牖と戸を閉じる。）

特牲饋食の儀礼の中核は，室内で尸に対して行われる九飯と三献にある。それに親しく接する

のは主人，主婦，賓長に限定される（役職として接する祝と佐食は除く）。特に主婦と賓長には返杯という形で恩寵の下賜が行われるのに対し，主人のみ「嗇」と「嘏」が賜与される。Ｄの部分で賓長が献じた杯を尸が一度置くのは，主人，主婦，賓長の間で杯を回し合い，祖先の恩寵を充分に行き渡らせるのを待つという意味があると推測できる。それ以外の参加者（衆賓・衆兄弟）には主人の献杯（Ｅ）を通してのみ，祖先の力は分与される。それは賓と兄弟の間で杯を応酬すること（Ｆ）で隅々まで行き渡ることになる。主人を媒介に祖先の恩寵にあずかった衆賓と兄弟は自ら尸に杯を献じる（Ｅ）が，衆賓長が献じた杯を尸が置き，Ｆになってから飲むのは，やはり祖先の恩寵が参加者に行き渡るのを待つという意味があると推測できる。つまり，特牲饋食の祭祀が強調しているのは，祖先の恩寵と，それを媒介する仲介者としての主人の地位にあると言うべきであろう。一般参加者は主人抜きでは祖先の恩寵にあずかれないのである。

第二に，にもかかわらず，主人は祖先と一体化しない。常に主人は東に，尸は西に位置する（東は主人の地位の象徴であり，西は客であることを表す）。尸の酒を飲み，食べ残しを食して祖先と一体化するのは，主人の後継ぎである。またＥで後継ぎは尸から觶を与えられるが，これは祖先専用の杯である。以上のことは後継ぎの特殊な地位と共に，逆に親子間には一定の乖離があることを示唆する。

第三に，祖先の恩寵が行きわたるためには，その父系子孫だけではなく，「賓」がいなければ祭りはできない。「賓」が具体的にどの範囲の人間関係から選ばれたのかは不明だが，鄭注に依拠して族外者であるとするなら，祖先の恩寵の力は一族だけで閉じていなかったと言える。

（三）少牢饋食礼前半―正祭

『儀礼』少牢饋食篇と有司徹篇は，少牢（羊と豕）を主要な供物とする諸侯の卿大夫の祖先祭祀を記載するが，それは有司徹中間の「若し尸を儐せざれば」という文言を境に大きく二つに分けることができる。前の部分は儐尸（ひんし）――祖先祭祀の「正祭」で尸を務めた者を「賓（儐）」として燕飲する儀節――を含む儀礼であり，それより後の部分は儐尸の儀節を含まない儀礼である。つまり少牢饋食と有司徹の部分は二つの儀礼（儐尸（ひんし）と不儐尸（ふひんし））を記載しているのである。鄭玄は，儐尸は上大夫の，不儐尸は下大夫の儀礼であるとしたが，それは彼の創説であり，「旧説」では同じ身分での状況の違い（親祭と摂祭）と理解されていた。その後においても，必ずしも鄭玄の理解は賛同を得られている訳ではない[(3)]。なお，少牢饋食と有司徹の両方とも「記」は存在しない。

紙幅の関係で本稿は儐尸礼を有する祭祀のみを対象とする。まず正祭の儀節をまとめる。

Ⓐ準備

１《日を筮（うらな）う》

祭日は十干の中の丁・巳の日を用い，その十一日前，祭日の吉凶を廟門の外で筮占する。主人は朝服（君主に謁見するときの礼服）し，門の東に西面。史（筮事を司る家臣）は東面し，主人から命を受ける。命は「孝孫某（祭祀者名）は，來日丁亥に，用て皇祖伯某（被祭者名）に歳事を薦め，某妃（被祭者配偶）を以て某氏に配す，尚（こいねが）わくは饗（う）けよ」。史は門の西に西面し，筮

を韇から出し，左手に筮を持ち，右手の韇で筮を撃ち，「爾大筮の常あるを假り，孝孫某は，來日丁亥に，用て皇祖伯某に歳事を薦め，某妃を以て某氏に配する，尚わくは饗けよ」と述べ，筮を立てる。卦者（卦を画く者）はその左に坐り，木で卦を作る。史は木に卦を書いて，主人に見せ，判断する。吉であれば，筮と卦を主人に示し，「占に曰く，從う」と告げ，主人は諸官に準備を命じる。不吉であれば，後の日にもう一度筮占を行う。

２《尸を占い，尸に告げ，諸官に告げる》

祭日の前日，尸を筮すが，その儀は筮日と同じ。命辞は「孝孫某は，來日丁亥に，用て皇祖伯某に歳事を薦め，某妃を以て某氏に配するに，某の某（誰々の子の誰々という表現）を以て尸と為す，尚わくは饗けよ」。吉であれば，そのまま尸に宿め，祝が「孝孫某は，來日丁亥に，用て皇祖伯某に歳事を薦め，某妃を以て某氏に配するに，某の某を以て尸と為す，敢えて宿む」と告げる。不吉であれば，別の尸を筮す。

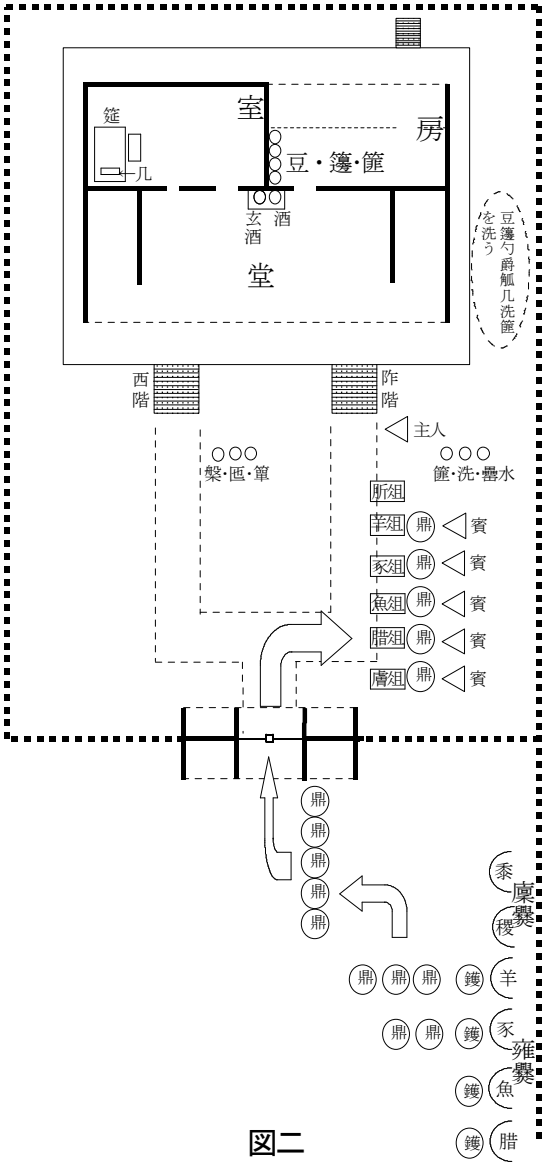
３《祭りの時刻を定める》

尸に宿めた後，廟門の外で祭祀の開始時刻を定める。主人は門の東に南面，宗人（儀礼を指揮する役）は北面。宗人は「祭期を請う」，主人は「子に比わん」，宗人は「旦明（早朝）事を行わん」。主人は「諾」と言う。

４《犠牲を殺し，器物を洗う》

翌日，主人は朝服をつけ，廟門の東方に南面。宰・宗人は西面，犠牲は首を北とし，東を上とする。司馬が羊を，司士が豚を殺す。門の東南の雍爨（肉を煮るかまど）で雍人が鼎（肉を煮る器具）・匕・俎（肉を盛る器）を洗う。雍爨の北の廩爨（黍稷を炊くかまど）で廩人が甑・甗（黍稷を炊く器具）・匕・敦（黍稷を盛る器）を洗う。司宮が豆・籩（食を盛る器）・勺・爵・觚・觶（爵以下いずれも杯）・几（ひじかけ）・洗（たらい）・篚（はこ）を東堂の下で洗い，勺・爵・觚・觶は篚に入れ，豆・籩・篚を房の西壁に列べる。洗は阼階の東南，東栄（東側のつま）の延長線上に置く。

宰は家宰であり，司馬，司士，雍人，廩人，司宮はいずれも職名で，注釈者は主人の家臣と解する。司宮が器具を担当していることについて，鄭注は「大夫は官を摂ねる」，つまり複数の事項を担当するとするが，特性饋食



図二

ではここまで担当が細分化されていない。

５《肉を煮，鼎に入れ，器物を用意》

肉が煮えたら雍人は三鼎を羊鑊（鑊は鍋）の西，二鼎を豕鑊の西に列べる。司馬が羊の右胖を，司士が豕の右胖を，雍人が膚（首の皮膚）九枚を，司士が魚十五匹，槃（おおじか）の腊（ほしにく）を鼎に入れる。鼎に扃（けい）（よこぎ）と冪（べき）（おおい）を設け，廟門の東方に北を上として列べる。司宮が房と室戸の間に甒（かめ）二つ（玄酒（水）と酒）を置く。罍（らい）（みずがめ）と枓（とう）（ひしゃく）を洗の東に，篚を洗の西に設ける。小祝が槃（たらい）・匜（みずさし）と巾（てふき）の入った簞（たん）（はこ）を西階の東に置く。

６《位置につき，設置の準備をする》

主人は朝服，阼階の東に西面。司宮が室の奥に筵を敷き，祝が筵の上の右側に几を置く。主人先導のもと，士が鼎を門内に運び，雍正と雍府が匕を，司士と司士贊者（贊者は礼を助ける者）が俎を持って従う。鼎を東序の南，洗の西に，西面に，羊・豕・魚・腊・膚の順に列べる。それぞれに匕を加え，枋（え）を東とする。鼎の西に俎を列ねる。肵（き）俎（心臓と舌を盛った俎。尸が口をつけた食は肵俎に盛る）は羊俎の北。賓が鼎から牲体を朼（さじ）とり，佐食（少牢饋食では二人）が羊と豕を俎に盛る。この時，骨のある方を手前とする（これは生人の饗宴とは逆方向である）。司士が魚，腊，膚を俎に載せる（以上，図二参照）。

この部分は，どの部位の肉を俎のどこに載せるのかに関する記載が詳細を極めるが，省略する。概ね表一のようになる。特牲饋食の場合，同様の記載は「記」の中にあり，末永高康の言い方を用いるなら，特牲饋食の「記」と少牢饋食の経は同じ意識の下に書かれたことになる。

なお，特牲饋食では鼎から肉を朼（さじ）とるのは主人であったが，少牢饋食では賓が行う。

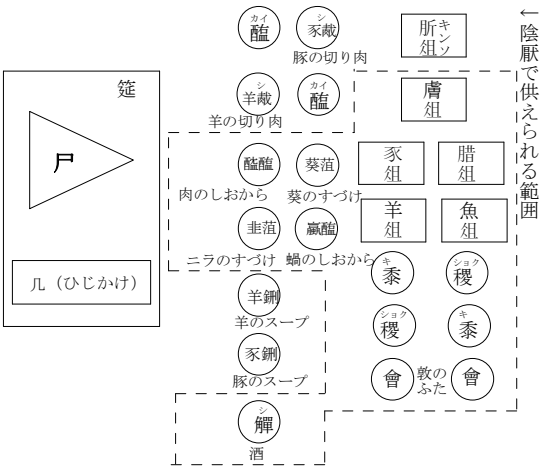
Ⓑ陰厭（いんえん）

７《祖先の座に供物を列べ，祝詞を詠む》

主人と祝が入室し，祝は北側で南面，主人は戸の内で西面。主婦は被錫（かもじ）を着け[4]，袂（たもと）を侈（ひろ）げ，菹（しょ）（すづけ）・醢（かい）（しおから）を薦める。佐食が羊・豕俎を，司士が魚，腊，膚俎を置く。主婦が黍敦・稷敦を設ける（図三参照）。

祝は爵（酒）を置き，佐食は敦の会（ふた）を啓（ひら）き，敦の南に置く。主人は再拝稽首，祝は主人の左で祝辞「孝孫某，敢えて柔毛（羊）・剛鬣（ごうりょう）（豕）・嘉薦（菹醢）・普淖（ふとう）（黍稷）を用い，以て歳事を皇祖伯某に薦め，某妃を以て某氏に配す，尚わくは饗（う）けよ」を述べる。主人は再び再拝稽首。

図三　少牢饋食における尸のための配膳



Ⓒ十一飯

８《尸が入室，坐に就かせる》

祝が尸を廟門の外で出迎える。主人は阼階の東に西面。祝は門を入り右に曲がり，尸は左に曲がる。宗人が槃を持ち庭の南に東面，一人が水の入った匜を持ち，槃の東に西面，一人が巾の入

った簞を持ち，槃の北に南面。尸に沃ぎ，槃上で盥う。簞を持つ者が巾を取り，三度振って，尸に授ける。尸は西階から登り入室。祝，従う。主人は阼階から登る。尸が筵に上がる。祝・主人は戸内に立ち，西面，尸に坐るように勧める。尸は答拝し，坐る。

９《尸十一飯》

9a〈墮(隋)祭〉[5]

尸は韭菹（韮のすづけ)を取り，醢醢(肉の塩辛)・葵菹(葵のすづけ)・臝醢(かたつむりの塩辛)に挼して，豆間で祭る（床に落とす)。佐食が黍稷と羊・豕の祭肺を尸に授け，共に豆間で祭る。佐食は羊・豕の肺（挙肺）[6]と正脊を尸に授け，黍敦を尸の右側に近づける。主人は肵俎を膚俎の北に置く。佐食が羊鉶（羊のスープ)，豕鉶（豚のスープ）を設ける。尸は羊鉶，豕鉶を祭り，羊鉶から嘗める。

9b〈十一飯〉

尸は挙肺と正脊を食べ，三回飯を食べる。佐食が羊・豕の正脅を尸に授け，尸は受け取って，振祭し[7]，食べ，余りは肵俎に加える（以下，食べ残しは全て肵俎に加える)。佐食が羊・豕の胾(きりにく)と醢醢・臝醢を菹醢の北に設ける。尸は一回飯を食べ，胾を食べ，魚一匹を振祭し，食べ，一回飯を食べる。腊の肩を振祭し，食べ，一回飯を食べる。羊・豕の骼を食べ，一回飯を食べる。尸は満腹を告げる。祝は主人の南に西面し，「皇尸は未だ実かず，侑む」と述べる。尸はまた一回飯を食べ，羊・豕の肩を食べ，満腹を告げる。祝は主人の南に西面し，侑める。尸はまた三回飯を食べる。佐食は挙肺と正脊を肵俎に加える。

この部分は，特性饋食では尸が觶(酒)を飲み，旨いと告げ，次に鉶(スープ)を飲んで旨いと告げるが，少牢では觶を飲まず，また旨いと告げない。鄭玄はそれは大夫が尊いためとする[8]。

Ⓓ三献

10《主人初献》主人が尸に酒を献じる。

主人が爵を尸に酳める。尸は拝して受け，主人は拝して送る。尸は酒を祭り，啐める。賓長が羊・豕の肝を縮に俎に載せ（右に塩を付す)，縮に俎を持ち羞める。尸は左手で爵を持ち，右手で肝を取り，塩に挼して，振祭し食べ，余りは菹豆に加え，爵を飲みほす。主人は拝し，尸は答拝。

10a〈尸が主人に醋い（返杯)，嘏辞と嗇を与える〉

祝が酒を酌み，尸に授け，尸は主人に醋いる（返杯)。主人は拝し，爵を受ける。尸は答拝。主人は爵を置き，再び拝。佐食は黍稷と羊・豕の祭肺を主人に授け，主人は左手に爵を，右手で祭肺を持ち，坐って祭り，酒を祭り，坐ったまま啐める。佐食が黍を摶めて尸に授け(これが嗇である)，尸はそれを持って祝に嘏辞を命じ，祝に嗇を授ける。祝は戸の西に東北面して，嘏辞「皇尸は工祝に命ず，多福無疆を女(汝)孝孫に承え致さす，女(汝)孝孫に來いて，女(汝)をして天に禄を受け，稼を田に宜しくし，眉寿萬年，替るなくこれを引かしめん」と共に主人に授ける。主人は坐り，爵を置き，立ち，坐り，再拝稽首し，立ち，嗇を受け，坐り，振祭し，嚌べ，詩けて懐から左の袂に入れ，袂を小指に挂けて，爵を持って立ち，坐り，爵を飲みほし，立ち，坐り，爵を置き，拝す。尸は答拝。主人は爵を持って立ち，退室，嗇を嘗め，房に入れる。

意味無く立ったり坐ったりしているように見えるが，基本的に拝礼と飲食，及び器物を置く時は坐らなければならないので，それを終えるとまた立つことになる。

10b〈主人が祝に酒を献じる〉

祝の席を南面に設け，葵菹・蠃醢と俎を薦め，主人が爵を祝に献じる。祝は拝し，坐し，爵を受ける。主人は答拝。祝は菹を醢に挻(ひた)し祭り，肉を祭り，酒を祭り，啐(な)め，肝を塩に挻し，振祭し，食べ，俎に加え，爵を飲みほして，立つ。

10c〈主人が佐食に酒を献じる〉

主人が佐食二人に酒を献じる。佐食は室の南側に北面，拝し，坐り，爵を受ける。主人は答拝。佐食は酒を祭り，爵を飲みほし，拝し，坐って，爵を主人に渡し，立つ。佐食の俎は両階の間に設ける。

11《主婦亜献》主婦が尸に酒を献じる。

主婦が房で爵を洗い，酒を酌み，入室，西面し，尸に献じる。尸は拝し，受ける。主婦は主人の北に西面，拝して爵を送る。尸は酒を祭り，爵を飲みほす。主婦は拝。尸は答拝。

11a〈尸が主婦に返杯する〉

祝は爵を別のものに代え，酒を酌んで，尸に授ける。主婦は拝して尸から爵を受ける。尸は答拝。主婦は祭肺を綏祭し，酒を祭り，爵を飲みほして，拝。尸は答拝。

11b〈主婦が祝に酒を献じる〉

贊者が爵を交換し，主婦に授け，主婦は酒を酌み，主人の北で祝に献じる。祝は拝し，坐って爵を受ける。主婦は答拝。祝は爵を飲みほし，坐ったままで爵を主婦に授ける。

11c〈主婦が佐食に酒を献じる〉

主婦は爵に酒を酌み，室の南で上佐食に献じる。佐食は北面，拝し，坐って，爵を受ける。主婦は西面，答拝。佐食は酒を祭り，爵を飲みほし，坐ったまま主婦に授ける。

12《賓長三献》賓長が尸に酒を献じる。

賓長が爵を洗い，尸に献じる。尸は拝し，受ける。賓は戸の西で北面，拝し，爵を送る。尸は酒を祭り，爵を飲みほす。賓は拝。尸は答拝。

特性饋食ではここで尸は爵を置いたが，それは祖先の恩寵（神恵）が室内の者に行きわたるのを待つためであった。少牢饋食では生人相互の献杯は儐尸礼（後半部）に移されており，三献が終われば尸は退出してしまうので，ここで爵を置くことはない。

12a〈尸が賓長に返杯する〉

尸が賓長に爵を授け，賓は拝し受ける。尸は拝し，爵を送る。賓は坐り，爵を置き，拝し，爵を持ち，立ち，坐り，酒を祭り，飲みほし，爵を持って立ち，坐って爵を置き，拝。尸は答拝。

12b〈賓長が祝に酒を献じる〉

賓は爵を祝に献じる。祝は拝し，坐り，爵を受ける。賓は北面して，答拝。祝は酒を祭り，酒を啐め，爵を筵の前に置く。（飲みほさず，また佐食への献はない。賈公彦は儐尸礼があるので，生人相互の献杯は省略するとする。）

Ⓔ蕣(せん)(餕(しゅん))

13《尸が退出する》

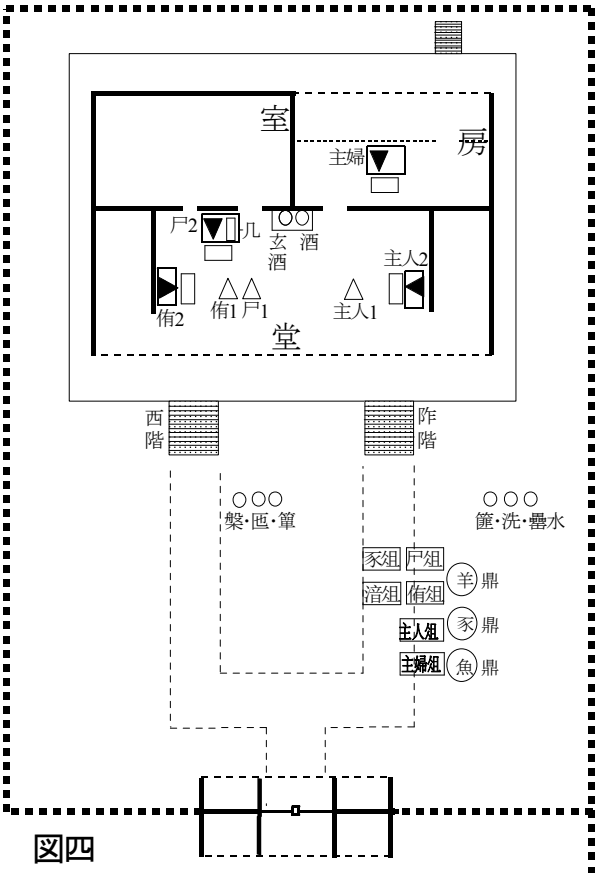
主人は室を出て，阼階の上に，西面で立つ。祝は西階の上に東面で立ち，「利成」（礼の完了）を告げる。祝は室に入り，尸が謖(た)つ。祝が先導して，尸は廟門を出る。

14《佐食二人と賓二人が尸の食べ残しを食す》

司宮が，尸の席の対面に席を設け，下佐食は上佐食の反対側に坐り，賓二人が坐る[9]。司士は黍を上佐食と下佐食に薦め，そこから一部を資(と)って羊俎の南北に置く。賓二人はそこから食べる。蓑者は黍，膚を祭る。主人は西面して三拝。蓑者は膚を俎に置き，席を避け答拝し，席に戻る。司士は鉶(スープ)を上佐食と下佐食に薦め，湆(にくじる)を賓に薦める。黍，膚を食べ終わると，主人は蓑者に爵を授け，西面して三拝。蓑者は爵を置き，答拝，酒を祭り，飲みほし，拝。主人は答拝。上佐食以外は退出し，主人は上佐食の爵を受け取り，戸内で西面，坐り，爵を置き，拝し，酢(むく)いる（相手の飲んだ杯に自ら酒を酌み，飲む）。上佐食は答拝。主人は坐って，酒を祭り，啐(な)める。上佐食は嘏辞「主人は祭の福を受け，胡(なが)く寿にして家室を保ち建てよ」を述べる。主人は立ち，坐り，爵を置き，拝し，爵を取り，立ち，坐って爵を飲みほし，拝。上佐食は答拝し，退出。主人は廟門まで見送る。

（四）少牢饋食礼後半—儐尸礼

儐尸礼は尸をつとめた者を主賓として行う宴会であり，後述するように，『儀礼』郷飲酒（地域共同体での饗宴）のシナリオにほぼ一致する。このことは儐尸は尸を主賓とするが，尸は祖先のかたしろなのではなく，生人として扱われていることを意味する。



図四

Ⓕ準備

15《侑を選ぶ》

室内の供献を撤去，堂を清掃，尊(缶)の酒の減った分を足し，尸の俎の肉を温め，羊・豕・魚を鼎に盛り（腊・膚は載せない），祭の初めと同様に廟門の東に北面，北を上として列べる。侑を賓の異姓の中から議(えら)ぶ。宗人は侑に戒(つ)げ，尸と侑は廟門外に北面で待機。

儐尸礼は侑という役を選ぶところから始まるが，侑について鄭玄は「賓の賢者を択び，以て尸を侑(たす)くべし，必ず異姓を用いるは，敬を広くするなり」と説明する。それは郷飲酒の「介」（サブゲスト，介添え）に相当する。

16《堂上に尸と侑の席を設け，入場》

司宮が尸の筵を堂上室戸の西に南面に，侑の筵を西序に東面に敷く。主人が廟門を出て尸を迎え，拝し，尸は答拝。主人は侑に拝し，侑は答拝。主人は揖(ゆう)（両手を胸の前に合わせる）して，先に門を入り，右に行く。尸は左に行き，侑が従う。

階で互いに揖して譲り，先に主人が阼階から登り，尸と侑は西階から登る。尸と侑は西楹の西に北面，東を上とする。主人は東楹の東に北面，尸に拝。尸は答拝。主人は侑に拝，侑は答拝する。

17《堂下に食事を列べ，配膳を俟つ》

司馬が羊鼎を，司士が豕鼎・魚鼎を挙げ，門を入り，鼎を前と同じように設置。雍正・雍府が匕を持ち，司士・司士贊者が俎を持ち従う。鼎に匕（さじ）を加え（枋（え）を東とする），羊鼎の西に二俎を，豕鼎・魚鼎の西に二俎を西に縮（たて）に置く（長辺を東西にする）。羊俎の西に更に二俎を置き，疏匕（柄の部分に飾りを施した匙）をうつむけに加え，枋（え）を西とする（以上，図四参照）。

Ⓖ儐尸三献

18《主人初献》主人が尸に酒を献じる。

18a〈主人が尸に几(肘掛け)を授ける〉

主人が宰から几を受け取るため，堂を降りる。尸・侑も降りる。主人は辞退するが，尸は応対し，降りる。主人は両手で几を横にして持ち，尸に揖して先ず登り，尸・侑も登り，西階上の位置に戻る。主人は阼階上で西面，左手で几を縮（たて）に持ち，右袂で三度几を払い，几を横向きに変え，進んで，筵の前で尸に授ける。尸は主人の両手の間に両手を入れ，几を受ける。主人は退く。尸は几を還（まわ）し，右手で外縁を持ち，北面して筵の左(東)に縮に置く。主人は東楹の東に北面して拝。尸は西楹の西の位置に戻り，北面して答拝。

「尸は応対し」とは主人の辞退に応答するということ（以下同じ）。几を筵の左に置くのは，正祭および特牲饋食とは逆で，鄭玄は生人は陽で左を尊び，死者は陰で右を尊ぶのだという。また「尸は主人の両手の間に両手を入れ」は，主人が几の外側を持ち，尸が内側に手を入れて受け取るということで，手の位置にまで言及する詳細さは他に例を見ない。

18b〈主人が尸に爵を献じる〉

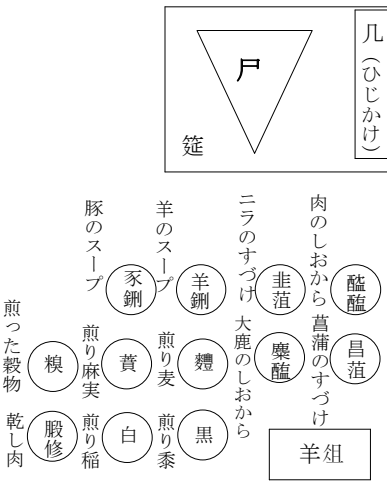
主人が爵を洗うために，堂から降りる。尸と侑も降り，洗を辞退するが，主人は応対し，洗う。主人は揖し，堂に登り，尸・侑が登る。尸は西楹西に北面して洗ったことを拝す。主人は東楹の東に北面，爵を置き，答拝。主人は盥（てあら）うために降りる。尸と侑も降りる。主人は辞退するが，尸は応対し，降りる。盥いおわったら，主人は揖し，堂に登り，尸・侑が登る。主人は坐し，爵を取り，酒を酌み，尸に献じる。尸は北面，拝し，爵を受ける。主人は東楹の東に北面，拝して爵を送る。

18c〈主婦が豆・籩を列べる〉

主婦が尸の筵の前に韭菹（にらのすづけ）・醢醢（にくのしおから）の豆，昌菹（しょうしょ）（菖蒲のすづけ）・麋臡（びでい）(おおじか)の醢（しおから）の豆，麷（ほう）（煎った麦）と蕡（ふん）（煎った枲（あさのみ））の籩，白（煎った稲）と黒（煎った黍）の籩を設ける（図五）。

18d〈牲肉を俎に載せる〉

司馬が羊を，司士が豕を朼（さじ）とり，俎に載せる。この部分は，尸の羊俎（羊鼎の西の北側①），羊肉湆（にくじる）の俎（西側の俎の南側②），尸の豕俎



図五　儐尸礼における尸の配膳

（西側の俎の北側③），侑の羊俎（羊鼎の西の北側④），侑の豕俎（③を用いる），主人の羊俎（豕鼎の西⑤），主人の羊肉湆の俎（②を用いる），主人の豕俎（③を用いる），主婦の羊俎（魚鼎の西⑥），尸の魚俎，侑の魚俎，主人の魚俎（③を用いる）の順にどの部位を幾つ載せるか，詳細を極めるが省略する。表二参照。

なお魚は正祭においては縮（たて）に載せたのとは異なり，横にし，祭に用いる膴（はら）の肉を加える。

18e〈賓長が尸の羊俎を薦め，尸が豆・籩を祭る〉

賓長が羊俎を豆の南に設ける。尸は西から筵に登り，坐し，左手で爵を取り，右手で韭菹を取って，三豆に挾（ひた）し，豆の間で祭り，麷と蕡，白と黒も共に豆間で祭る。

18f〈次賓が尸に羊のスープを薦め，尸が味わい，酒を飲む〉

尸は立ち，左手に爵を，右手に祭肺を持ち，坐り，肺，酒を祭り，立つ。

次賓が左手で羊湆俎の外縁を持ち，右手で疏匕（飾りのついた匙）の枋（え）を卻（あおむ）けに持って俎の上に縮（たて）に置く。司馬が桃匕（汁をすくう匙）で羊鼎の汁を三度注ぐ。次賓は堂に昇り，尸に授ける。尸は手を卻（あおむ）けに匕の枋を受け取り，坐り，嚌（な）め，立ち，手を覆（うつむ）けに次賓に返す。次賓も覆にして受け，俎に匕を置いて降りる。尸は席の末に坐し，酒を啐（な）め，立ち，坐って爵を置き，拝し，旨いと告げ，爵を持ち立つ。主人は東楹の東に北面し，拝。

この部分も，匕を仰向けで受け取り，うつむきで返すという細部へのこだわりを表す。

18g〈司馬が羊肉湆俎を薦め，尸は肺を食べる〉

司馬が羊湆俎を縮（たて）に持ち，尸に薦める。尸は坐り，爵を置き，立ち，挙肺を取り，坐り，絶（たちき）って祭り，嚌（た）べ，立ち，残りを俎に戻す。司馬は湆俎を羊俎の南に縮（たて）に置き，その中身を羊俎に載せ，湆俎を持って降りる。

18h〈次賓が尸に羊の燔（あぶりにく）を薦め，尸は爵を飲みほす〉

尸は坐り，爵を取り，立つ。次賓が羊の燔（あぶりにく）の俎を縮（たて）に持ち，尸に薦める（この俎は堂下東南に設置したものではなく，別に用意する。俎には燔一つを縮（たて）に置き，右に塩を付す）。尸は左手で爵を持ち，右手で燔を取り，塩に挾（ひた）し，坐り，振祭して，嚌（た）べ，立ち，残りを羊俎に加える。次賓は俎を持ち降りる。尸は筵を降り，西楹の西に北面，坐り，爵を飲みほし，爵を持って立ち，坐って爵を置き，拝し，爵を持って立つ。主人は東楹の東に北面して答拝。主人は爵を受け取り，尸は筵に登り，その端に立つ。

19《主人献侑》主人が侑に酒を献じる。

主人は酒を侑に献じる。侑は西楹の西に北面，拝し，爵を受ける。主人はその東に北面し，答拝。この時，尸が飲んだ爵を洗わない。鄭玄は尊者から卑者に杯が回る場合には，特に事情がない限り洗わないとする。

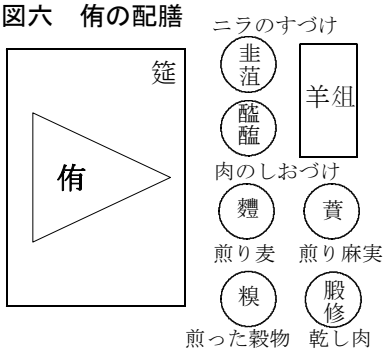
19a〈主婦が侑に豆と籩を薦める〉

主婦が韭菹（にらのすづけ）・醢醢（にくのしおから）の豆，麷（ほう）（煎った麦）と蕡（ふん）（煎った枲（あさのみ））の籩を薦める。図六参照。

19b〈羊俎を設け，羊燔を羞（すす）め，侑は爵を飲みほす〉

侑は北方から筵に登る。司馬は羊俎を横向きに持ち，豆の東に設ける。侑は坐り，左手に爵を持ち，右手で韭菹を

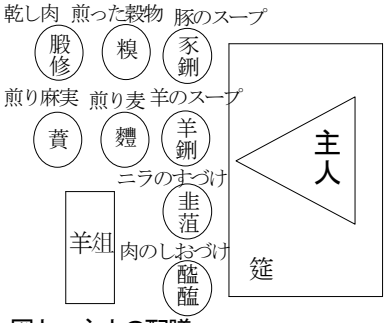
図六　侑の配膳



取り，醢に挼し，麷と蕡と共に豆の間で祭り，左手に爵を持ったまま立ち，右手で祭肺を取り，坐り，祭り，酒を祭り，左手に爵を持って立つ。次賓が羊燔を羞めること，尸の礼と同じ（即ち，立ったまま燔を取り，坐って振祭し，食べ，立って残りを羊俎に載せる）。侑は筵から降り，西楹西に北面，坐り，爵を飲みほし，立ち，坐って爵を置き，拝す。主人は北面し答拝。

20《尸が主人に酢いる（返杯）**》**

尸が侑から爵を受け取り，洗うために堂から降りる。侑も降りて西階の西に東面。主人は阼階から降りて，洗うのを辞退する。尸は坐って，爵を篚に置き，答拝し，立ち，応対し，洗う。主人，尸は堂に登る（侑は堂下に残る）。主人は尸が爵を洗ったことを拝し，尸は西楹西に北面して，坐り，爵を置き，答拝。尸は盥うために降りる（手が汚れたため）。主人も降りる。尸は辞退し，主人は応対する。主人，尸は堂に登り，尸は爵に酒を酌み，主人に献じる。司宮が主人の席を東序に西面に設ける。主人は東楹東に北面，拝して爵を受け，尸は西楹西に北面して，答拝。



図七　主人の配膳

20a〈主婦が主人に豆と籩を薦める〉

主婦が韭菹・醢醢，麷・蕡を置く。主人は北側から筵に登る（図七参照）。

20b〈主人の羊俎を設け，肉汁を薦め，主人は酒を飲む〉

賓長が羊俎を豆の西に設ける。主人は坐し，左手に爵を持ち，豆・籩を祭り，立ち，右手で祭肺を取って，坐し，肺，酒を祭る。次賓が湆の入った匕を羞める（尸の礼と同じ）。主人は席の末に坐し，酒を啐め，爵を持ったまま立つ。司馬が羊湆俎を縮に持って羞める。主人は坐し，爵を左に置き，立って挙肺を取り，坐って肺を絶って祭り，嚌べ，立ち，残りを湆俎に戻す。司馬は湆俎を羊俎の西に縮に置き，その中身を羊俎に載せ，湆俎を縮に持って降りる。

20c〈羊燔を羞め，主人は酒を飲みほし，酒を崇す〉

主人は坐し，爵を取り，立つ。次賓が燔を羞めること，尸の礼と同じ（即ち，燔を塩に挼し，振祭して食べ，残りを羊俎に加える）。主人は筵を降り，阼階の上で北面，坐し，爵を飲みほし，立ち，坐って爵を置き，拝し，爵を持って立つ。尸は西楹西に北面し，答拝。主人は坐し，爵を東序の南に置く。堂下にいた侑が堂に登り，尸と侑は西楹の西に北面，主人は東楹の東に北面，主人は再拝し，酒を崇したことを感謝する。尸と侑は答拝。主人・尸・侑はみな筵に戻る。

「酒を崇す」とは，鄭玄に依ると，「崇」は充満の義で，粗末な酒にもかかわらず，尸と侑が満足してくれたことに感謝の念を表すものとする。

21《主婦献尸》主婦が尸に酒を献じ，豚の肉を薦める。

司宮が篚から出した爵を主婦は房中で洗い，酒を酌み，尊(甒)の南で西面，拝し，尸に献じる。尸は筵上で拝し，爵を受ける。主婦は主人の席の北で西面，拝し，爵を送り，次に羊鉶（羊のスープ），豕鉶（豚のスープ），糗（いりごめ。穀物を乾かし，搗いて粉にしたもの），腶修（ほしにく。肉を乾かし，挽いて薑・肉桂の粉を混ぜたもの）を薦める（図五参照）。尸は坐って，左手に爵を取り，糗・修を祭り，柶で羊鉶・豕鉶を共に挹い祭り，酒を祭る。次賓が豕の湆の入った匕を羞めること，羊の匕湆の礼と同じ。尸は坐って，酒を啐め，左手に爵を持

って，上鉶(羊鉶)を嘗め，立ち，坐り，爵を置き，拝す。主婦は答拝。尸は爵を持って立つ。司士が豕の脀(もりもの)（肉)を羞(すす)める（③の俎を用いる)。尸は坐り，爵を置き，立って受け，坐って爵を取り，立つ。次賓が豕の燔(あぶりにく)を羞める。尸は左手で爵を持ったまま，燔を受けること，羊の燔の礼と同じ。坐って，爵を飲みほし，拝。主婦は答拝。

21a〈主婦が侑に酒を献じ，豚の肉を薦める〉

主婦は尸の爵を受け，酒を酌み，侑に献じる。侑は拝して受ける。主婦は主人の北に西面し，答拝し，糗(いりごめ)と腶修(ほしにく)を薦める（図六参照)。侑は坐り，左手に爵を持ち，糗と修を取り，祭る。司士が縮(たて)に豕の脀(もりもの)（肉)を持ち薦める。侑は立ち，肺を取り，坐り，祭る。司士は豕の肉を羊俎に載せ，豕俎を持って降りる。侑は立つ。次賓が豕燔を羞め，侑が受けること，尸の礼と同じ。侑は坐って，爵を飲みほし，拝す。主婦は答拝。

21b〈主婦が主人に酒を献じ，豚の肉を薦める〉

主婦は侑の爵を受け，酒を酌み，主人に献じる。主人は拝して爵を受ける。主婦は阼階の上で北面し答拝。主婦が羊鉶・豕鉶と糗(いりごめ)・修(ほしにく)を設ける（図七)。主人は糗・修，鉶，酒を祭り，豕の湆(にくじる)を受け，酒を啐(な)め，豕の脀(肉)，豕の燔を受けるなど，全て尸の礼と同じ。坐り，爵を飲みほし，拝す。主婦は北面して，答拝，爵を受ける。

21c〈主婦が尸の酢(むく)い（返杯）を受け，亜献の礼が畢る〉

尸は主婦から爵を受け取り，堂から降りる。主人，侑も降りる。主婦は房に入る。主人は洗の東北に立ち，西面。侑は西階の西南に東面。尸は篚で爵を取り替え，盥(てあら)い，爵を洗う。主人は尸と侑に揖し，堂に昇り，主人は東楹の東に北面，侑は西楹の西に北面，尸は酒を酌む。主婦は房を出て西面し，拝して爵を受ける。尸は侑の東に北面，答拝する。主婦は房に入る。司宮が席を房に南面に設ける。主婦は席の西に立つ。婦の贊者は韭菹(にらのすづけ)と醢(しおから)を薦め（菹が西)，菹の西に麷(いりむぎ)を，麷の南に蕡(いりあさのみ)を置く。主婦は筵に升る。司馬が羊俎を豆の南に設ける。主婦は坐り，左手に爵を持ち，右手で菹を醢に挽(ひた)し，祭り，麷と蕡を祭る。主婦は爵を置いて，立ち，肺を取り，坐り，絶ち切って祭り，食べ，立って，俎に戻し，坐って，手を挩(ぬぐ)い，酒を祭り，酒を飲む。次賓が羊燔を薦める。主婦は立って燔を受けること，主人の時と同じ。主婦は爵を持って房を出て，主人の北に西面し，立ったまま飲みほし，拝す。尸は西楹の西に北面，答拝。主婦は房に入る。尸・主人・侑は席に戻る。

22《上賓三献》上賓（賓長）が尸に酒を献じるが，尸は杯を置き，飲まない。

賓長は爵を洗い，堂に升り，酒を尸に献じる。尸は筵で拝して受ける。賓は西楹の西に，北面，拝して爵を送る。尸は爵を薦の左に置いて飲まない（この爵を飲むのは32《上賓三献の礼成る》においてである)。賓は堂から降りる。

23《主人が尸に酬(むく)いる（先ず自分が飲み，その杯で相手に薦める)**》**

主人は觶を洗うため，堂から降りる。尸・侑も降りる。主人は辞退するが，尸は応対する。洗い終えると，揖し，主人と尸は堂に升る（侑は残る)。主人は酒を酌み，東楹の東に北面，坐り，爵を置き，拝す。尸は西楹の西に北面し，答拝。主人は酒を祭り，飲みほし，拝。尸は答拝。主人は觶を洗うため，堂から降りる。尸も降り，辞退するが，主人は応対する。主人と尸は堂に昇り，主人が爵を献じる。尸は拝して受ける。主人は東楹の東に北面し，答拝。尸は北面して，坐し，爵を膳の左（既に献じられた賓長の爵の南）に置く。

24《尸・侑・主人・主婦に庶羞（追加の食）**を羞(すす)める》**

宰夫が糗餌(きゅうじ)(むしもち)・粉餈(ふんし)(だんご)の二籩，酏食(いしょく)(うすがゆ)・糝食(さんしょく)（具入りの粥)の二豆を尸・侑・主人・主婦に羞め，全て右に置く。司士は羊臐(くん)（羊肉のあつもの)・豕膮(きょう)（豚肉のあつもの)・胾(きりにく)・醢(しおから)の四豆を左に置く[10]。

㊐賓・兄弟・内賓・私人に酒を献じる

25《西階の上で主人が賓長に酒を献じる》

主人は堂から降り，門の東に南面，衆賓を拝して，三拝。衆賓は門の東に，北面，答えて一拝。主人は爵を洗う。長賓は辞退するが，主人は応対する。堂に升り，西階の上で賓に酒を献じる。賓長は堂に升り，拝し，爵を受ける。主人は右側で北面し，答拝。宰夫が脯(ほしにく)と醢(しおから)を（醢が西)，司士が俎（羊骼１・腸１・胃１・切肺１・膚１）を豆の北に設ける。賓は坐し，左手に爵を持ち，右手で脯を醢に挼(ひた)し，祭り，爵を持ったまま立ち，肺を取り，坐り，祭り，酒を祭り，爵を飲みほし，立ち，坐って爵を置き，拝，爵を持って立つ。主人は答拝し，爵を受ける。賓は坐し，自分が祭ったものを持って堂から降り，西面して坐り，祭った物を置く。宰夫がその東に薦めた物(豆)を，司士が俎を設ける。

主人が「三拝」するのは，衆賓にまとめて挨拶するという意味である。祭祀の最初の部分で衆賓は堂下東南の鼎の位置につき，その立ち位置に変化がなかったが，ここで始めて西方の位置に変化し，旅酬の準備ができることになる。

26《全ての衆賓に酒を献じる》

衆賓長（衆賓中の長老）は堂に升り，拝し，爵を受ける。主人は答拝。衆賓長は坐り，祭り，立って，爵を飲みほす。主人は拝さない，以下，普く衆賓に献じ，みな爵を受け，脯(ほしにく)と醢(しおから)と肉を薦め（肉の部位は適宜でよい)，賓長に続いて南にならび，皆な東面とする。

27《主人は賓長に自ら酢(むく)いる（賓長の用いた杯に自ら酌んで飲む)**》**

長賓が堂に升る。主人は酒を酌み，長賓の右，西階の上で北面，坐して爵を置き，拝し，爵を持ち立つ。賓は答拝。主人は坐し，祭り，爵を飲みほし，立ち，坐って爵を置き，拝す。賓は答拝。

28《主人は賓長に酬い（先ず自分が飲み，その杯で薦める)，**賓長は杯を置いて飲まない》**

主人は觶に酒を酌み，堂から降り，西階の南に北面，長賓に酬いる。主人は坐し，爵を置き，拝。賓は答拝。主人は酒を祭り，爵を飲みほし，拝。賓は答拝。主人は爵を洗う。賓は辞退するが，主人は応対し，賓に酒を献じる。賓は拝し受ける。主人は拝し爵を送る。賓は西面し，坐し，爵を膳の左に置く。

29《阼階の上で主人が兄弟（同族者）**に酒を献じる》**

兄弟の長が升り，拝し，爵を受ける。主人はその右で答拝。兄弟の長は坐り，祭り，立って飲み，爵を飲みほしたことを拝さない。以下同様に，衆兄弟に普く献じ，その位は洗の東に西面，北を上とする。兄弟中の年長者の肉は折脅１と膚１。それ以外は適宜でよい。

30《主人が房の中で内賓（女性参加者）**に酒を献じる》**

内賓は南面，拝して爵を受ける。主人はその右に南面し，答拝。内賓は坐り，祭り，立ち，飲むが，爵を飲みほしたことを拝さない。また脯・醢と肉を薦める。

31《阼階の上で主人が私人（家臣）**に酒を献じ，神恵が行き渡る》**

私人は堂下で拝した後，升り，爵を受ける。主人はその長のみに答拝。私人は堂から降り，坐って，祭り，立って，飲むが，爵を飲みほしたことを拝さない。宰夫は主人が酒を酌むのを助ける。主人は群私人に対しては答拝しない。その位は兄弟の南に続き，やはり北を上とする。また薦と肉を薦める。

32《上賓三献の礼成る》

尸は先に賓長が献じ，飲まずに置いた爵を作(おこ)す（取る）。司士は魚俎を縮(たて)に持ち，薦める。尸は膴祭（切り身）を取り，祭り，酒を祭り，爵を飲みほす。司士は魚俎の内容を羊俎に載せ，魚俎を持って堂を降りる。尸は爵を置き，拝。賓長は北面し，答拝，爵を受け，酒を酌み，侑に献じる。侑は拝し，爵を受ける。賓長は北面し，答拝。司馬が魚俎を薦めること，尸の時と同じ。侑は爵を飲みほし，拝。賓長は答拝し，爵を受け，酒を酌み，主人に送る。主人は拝し，爵を受ける。賓長は東楹の東に北面し，答拝。司士が魚俎を薦めること，尸の時と同じ。主人は爵を飲みほし，拝。賓長は答拝し，爵を受ける。尸は賓長から爵を受け取り，酢(むく)いる。賓長は西楹の西に北面，拝。尸はその右で爵を授け，筵に戻り，南面し，答拝。賓長は坐り，祭り，爵を飲みほし，拝。尸は答拝。

①旅酬

33《二人の者が杯を挙げ，旅酬を開始する（旅酬第一巡）》

二人の者が觶(コップ)(爵)を洗い，堂に升り，酒を酌み，西楹の西に北面，東を上として坐し，爵を置き，拝し，爵を持って立つ。尸と侑は答拝。二人は坐り，祭り，爵を飲みほし，立ち，坐って爵を置き，拝す。尸と侑は答拝。二人は堂を降り，爵を洗い，升って酒を酌み，爵を献じる。尸と侑は拝し受ける。觶を挙げた者二人は拝送する。侑は觶を右に置き，飲まない（尸の杯を用いるので，使わないため）。尸は觶を持って立ち，阼階上に北面して，主人に酬いる。尸は坐り，爵を置き，拝。主人は答拝。尸は酒を祭らず，立って爵を飲みほすが，飲みほしたことを拝さない。尸は酒を酌み，主人に爵を酬(むく)いる。主人は拝して，受ける。尸は拝送し，筵に戻る。主人は西楹の西で侑に酬いる。主人は坐り，爵を置き，拝し，爵を持って立つ。侑は答拝。主人は祭らず，立ったまま飲み，爵を飲みほすが，飲みほしたことを拝さない。主人は酒を酌み，侑に献じる。侑は拝し，爵を受ける。主人は拝送。主人は筵に戻る。次に長賓を堂に升らせ，侑がそれに酬いること，同様に行い，衆賓，兄弟に及ぶまで皆な堂上で飲む。私人は拝して，堂に升り爵を受け，下って飲みほし，堂に升って酒を酌んでから，お互いに酬いる。最後に飲み終えた者は爵を篚に入れる。庶羞（追加の食）を賓・兄弟・内賓と私人に薦める。

34《兄弟の若者が兄弟の年長者に酬いる》

兄弟の後生者（若者）は，觶を兄弟の長に挙げる。觶を洗い，堂に升り，酒を酌んで降り，阼階の南に北面で立つ。長はその左（西）。後生者は坐って，爵を置き，拝し，爵を持って立つ。兄弟の長は答拝。後生者は坐って，祭り，そのまま飲んで，爵を飲みほし，爵を持って立ち，坐って，爵を置き，拝し，立つ。長は答拝。後生者は爵を洗い，堂に升り，酒を酌んで，長に献じる。長は拝して爵を受ける。爵を挙げた者（＝後生者）は東面して答拝[11]。長は爵を止め，飲まない（この爵は後に37《無算爵》で用いる）。

35《賓長（衆賓長）が尸に酒を献じる》

衆賓長が尸に酒を献じること，賓長三献のようにするが，湆魚はなく，爵を止めることもない

（これは特性饋食のＥ「長兄弟，衆賓長が室内で尸に爵を加える」に相当する）。

36《賓の中の一人が爵を尸に挙げ，改めて旅酬を行う（旅酬第二巡）》

賓の中の一人が爵を尸に挙げること，前（33《旅酬第一巡》）と同様にする。

37《無算爵》

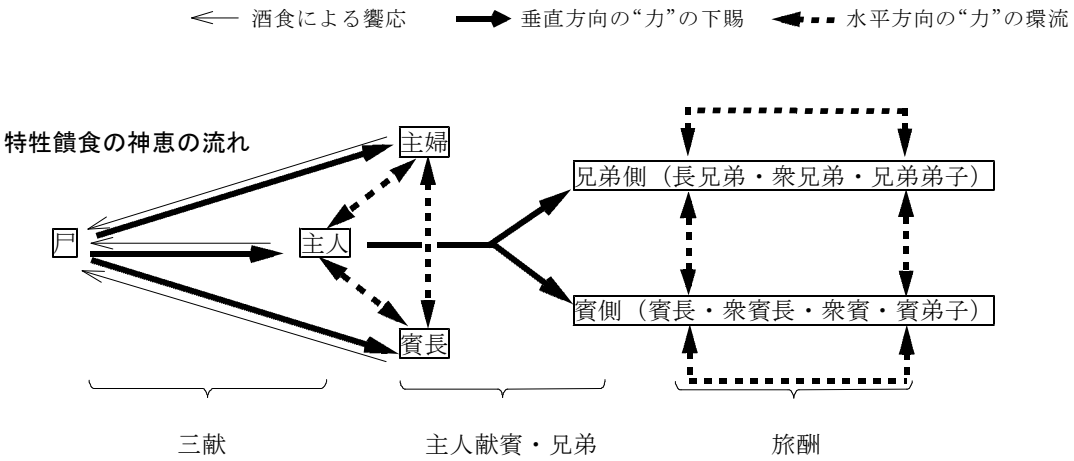
二觶を用い，賓と兄弟はお互いに酬いあい，私人に至るまで，爵を限りがなく及ぼす。

38《儐尸礼畢（おわ）る》

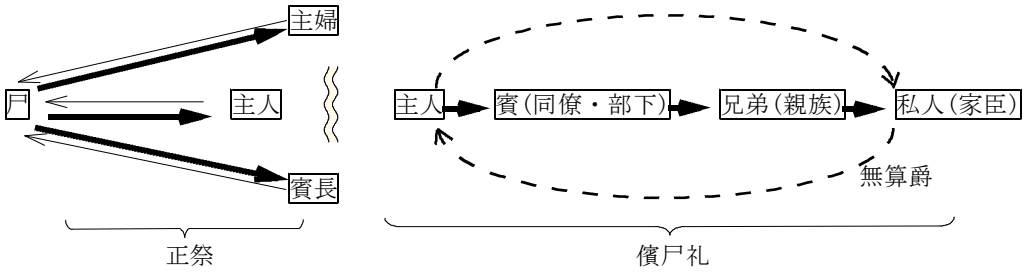
尸は退出し，侑が従う。主人は廟門の外まで送り，拝す。尸は振り返らない。主人が侑と長賓を拝することも同様。その後に衆賓が従う。司士は尸と侑の俎（食べ残したもの）を贈る。主人は退き，有司が配膳を徹去する。

（五）考察１―親族関係と君臣関係

少牢饋食礼はかなり複雑であるが，前半部分（正祭）と後半部分（儐尸）に大きく分かれ，祖先の霊（尸）を中心とする前半部分は陰厭(Ⓑ)，十一飯(Ⓒ)，三献(Ⓓ)，蕡(Ⓔ)から成り，尸をつとめた者を主賓とする宴会である後半部分は儐尸三献(Ⓖ)，賓・兄弟・内賓・私人に酒を献じる(Ⓗ)，旅酬(Ⓘ)から成る。祭祀としての正祭と宴会としての儐尸の対照性は，例えば，正祭では尸を廟門の外に出迎えず，儐尸では出迎える，正祭では配膳してから招き，儐尸では招いてから配膳，正祭では几を右に，儐尸では左に置く，儐尸の礼では祝が登場しないなど，明らかである。特性饋食礼の祖先祭祀と比較するなら，特性饋食礼全体の主要構成要素（Ｂ陰厭→Ｃ九飯→Ｄ三献→Ｅ衆賓と兄弟への献酒→Ｆ旅酬→Ｈ蕡→Ｉ陽厭）の内，生人間相互の応酬の性格を持つＥＦを儐尸として後半にまとめた流れになっており，従ってⒺ蕡は最後ではなく，間をとばすような形で正祭三献の後に置かれ，そのため繁雑な儀節と膨大な供献にもかかわらず，正祭全体としては尸・主人・主婦・賓長間の閉じたシンプルな儀礼となっている。そして神人間の饗応の後に生人間の宴会が行われるため，特性饋食の陽厭(Ｉ)が入る余地はない[12]。両者を対照させる形で図示するなら，次のようにまとめることができるであろう。



少牢饋食の神恵の流れ



これは，少牢饋食が神恵を参加者全体に行きわたらせることを志向しないということである。正祭に限定するなら，尸と主人・主婦・賓長の間では献酒と返杯があるが，主人・主婦・賓長相互間の致爵は存在しない。祖先の恩寵は参加者へ一方的（垂直的）に下賜されるだけで，それを水平方向に行きわたらせる儀節は備えていない。それを最も良く表すのが，特性饋食ではD《賓長三献》で尸が杯を暫く置き，神恵が行きわたるのを待つのに対し，少牢饋食では尸が直ちに杯を飲みほす点になる。比喩的な表現をとるなら，強調されているのは力の“下賜”であり，“共有”ではない。更に，祖先の恩寵は一般の祭祀参加者（衆賓・衆兄弟）には開かれていない。主人から祭祀参加者への献杯は儐尸の後半に置かれているため，特性饋食で明瞭であった主人が祖先の恩寵を参加者に分与するという構造が読み取りにくくなっており，むしろ主人自らの参加者への恩恵という印象がある。

もちろん，儐尸礼でも尸の恩寵の流れは（たとえ祖先の霊そのものではなかったとしても）意識されている。例えば，三献の最後で賓長が献じた杯を尸が置いて飲まず（Ⓖ22），主人の献酒が終わってから飲むが(Ⓗ32)，これは，主人が参加者全員に杯を与えるのを待つということで，尸の恩寵の流れと主人が与える恩寵の流れを一致させるという意味があろう。但し，一般祭祀参加者は主人からのみ恩寵を与えられ，尸のそれにはあずかれないのだから，やはり上から下への垂直的な流れである。

このことと関連し，祭祀参加者の範疇は基本的には特性饋食と同じだが，明らかに助祭者（家臣）の数が多く，逆に兄弟と賓の比重が軽いことが指摘できる。特性饋食では賓・衆賓は堂下西方に，東面して整列するが，少牢饋食では賓が肉の盛りつけを手伝うため，堂下東南の位置に来る（これは特性饋食では家臣が立つ位置である）。主人が酒を献じる時，賓長だけは坐って飲むが，それ以外の賓は立って飲み，また主人は拝さない(Ⓗ26)。

親族関係者の影は更に薄い。根本的に正祭には兄弟は登場せず，主人の献酒では全員が立って飲む(Ⓗ29)。鄭玄はこれについて，少牢饋食の祭祀主宰者は身分が高く，従って賓も身分が高いから，親族より優先されると解する[13]。更に，主人の献杯(Ⓗ)では祭祀参加者は賓，兄弟・内賓・私人の順で等級があり，この等級は旅酬(Ⓘ)で尸→主人→侑→賓長→衆賓→兄弟→私人の順で杯が回されることによって強調される。恩寵の流れは徹底的に上から下（垂直方向）であり，特性饋食の旅酬が賓→兄弟→賓→兄弟と水平方向で回されるのと著しい対照をなす。

少牢饋食のⒺ蓋を行うのが佐食二人（家臣?）と賓二人であるのも，これと関係しよう。特性饋食ではH蓋を行うのは嗣（後継ぎ）と長兄弟であった。特性饋食でユニークな地位にあった後

継ぎが少牢饋食では登場しない。ではなぜ佐食と賓なのかは解釈が難しいが，鄭玄が大夫は尊く，その祭祀の「神恵」も広く及ぶから四人なのだと言う[14]。これを士の祭祀の「神恵」は同族の範囲を超えないから嗣子と長兄弟を用いるが，大夫の祭祀の「神恵」はその範囲を越えるから親族外の者を用いると解釈することができるなら，少牢饋食では親族関係よりも君臣関係や僚属関係の方に重点があり，故に下輩(?)である賓や家臣である佐食を用いると解釈できるだろう。儐尸礼で侑が必ず父系親族外から選ばれるのも，このことと関係するかもしれない。鄭玄は必ず異姓を用いるのは「敬を広くする」と述べるが，それが大夫は尊いから，その祖先祭祀もより広い範囲の者が参与しなければならないという意味であるなら，大夫の祖先祭祀は親族内で閉じてはならないという意識を儀礼構成者が持っていたことになる。

まとめるなら，少牢饋食の祖先祭祀の重点は親族関係ではなく，君臣関係（あるいは身分の上下）にあったと言えるであろう。

（六）考察２―『儀礼』郷飲酒礼との比較

少牢饋食の儐尸礼の構成が郷飲酒と類似することは，既に注釈者によって指摘されている。鄭玄によれば「郷飲酒」は郷（地域共同体）を支配する大夫が三年に一度，郷中の賢者・能者を君主に推挙するに当たり，彼らを賓として招き行う饗宴である[15]。少牢饋食の儐尸礼には幾つか意味のない儀節に見えるところがある（例えば，既にⒼ儐尸三献を行ったにもかかわらず，更に尸に酬を行う(23)など）が，郷飲酒禮と比較すると，この謎は比較的容易に解ける。

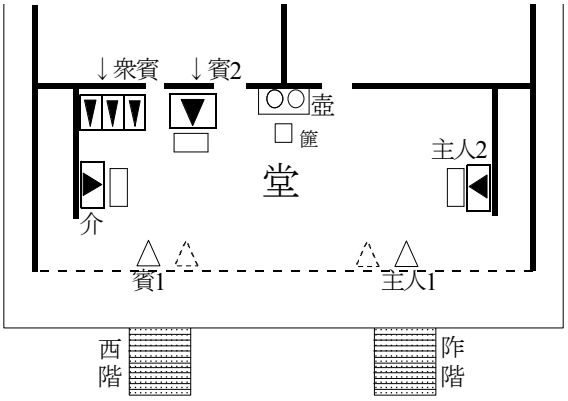
郷飲酒礼の流れ

ⓐ準備

１《主人は長老と相談し賓と介を選ぶ》

２《陳設》賓の席を堂の北側，牖（まど）の前に南面，主人の席を阼階の上に西面，介の席を西階の上に東面，衆賓の席を賓の西に用意し，互いに離す。

３《賓・介・衆賓を招く》主人は阼階から，賓は西階から堂に登る。介以下は堂下，西方に控える。



ⓑ主人が賓・介・衆賓に酒を献じる

４《主人が賓に酒を献じる》主人は賓の席に爵を置く。賓は西階上で拝，席に就き，脯（ほしにく）・醢（しおから），肺，酒を祭り，酒を飲んで，旨いと告げ，西階上に北面，坐して飲みほす。主人は阼階上に北面，答拝。

５《賓が主人に酢（むく）いる(返杯)》賓が爵を主人の席に置く。主人は阼階上で北面し拝，席につき，賓と同様に祭り，酒を飲み，阼階上で北面，坐して飲みほし，再拝して酒を崇める（粗末な酒で満足してくれたことを感謝する）。賓は答拝。

６《主人が賓に酬いる》主人は阼階上で坐し爵を飲みほし，その爵を賓の席の西(右)に薦める。

賓は北面のまま爵を東(左)に置いて，飲まない。

7《主人が介に酒を献じる》主人と賓は堂を降り，主人と介が登る。主人は爵を介の席に薦める。介は西階上で拝し，席に就き，祭り，酒を飲み，西階に北面して飲みほすこと，賓の場合と同じ。

8《介が主人に酢いる》主人は西階上，介の東で爵を飲みほし，再拝して酒を崇める。介は答拝。

9《主人が衆賓に酒を献じる》介は堂を降り，衆賓が西階の上で杯を受け，立って飲みほす。

10《主人の家臣一人が觶を賓に挙げる》賓・介・衆賓が席に就く。主人の家臣一人が西階上で北面，坐って觶を飲みほし，その觶で賓に薦める。賓は觶を西(右)に置く（この杯は旅酬(17)で用いる)。

ⓒ音楽の演奏

11《演者が入場，三曲歌い，工に酒を献じる》演者は西階東に北面。曲目は『詩』鹿鳴・四牡・皇皇者華。酒は西階上で献じる。

12《笙の奏者が三曲演奏，奏者に酒を献じる》奏者は堂下南に北面。曲目は南陔・白華・華黍。

13《閒歌》歌と演奏を交互に行う。曲目は魚麗，由庚，南有嘉魚，崇丘，南山有臺，由儀。

14《瑟と笙を合奏，楽が備わるを告げる》曲目は周南關雎・葛覃・卷耳，召南鵲巣・采蘩・采蘋。

ⓓ旅酬（賓→主人→介→衆賓）**・無算爵**

15《家臣の一人を司正（司会役）に任じ，賓を再び着席させる》司正は堂中央に北面し立つ。

16《司正が位を表(ただ)す》司正が堂下中央，北面して酒を飲む。

17《賓が主人に酬(むく)いる》賓が阼階上，北面して先に家臣が挙げた爵(10)を飲みほし，それを主人に献じる。

18《主人が介に酬いる》主人が西階の上で自ら飲み，その爵を介に献じる。

19《介が衆賓に酬い，衆賓は旅酬する》司正が順次，衆賓を指名し，西階上で爵を受けしめる。

20《主人の家臣二人が觶を賓・介に挙げる》先ず西階の上で自分が飲み，賓・介に送る。賓・介は杯を右に置く。(この杯は無算爵(22《坐燕》)で用いる。)

21《徹俎》更にくつろぐために，膳を撤去する。

22《坐燕（無算爵)》屨(くつ)を脱ぎ，無制限に杯を送り，音楽を奏でる。

23《賓，退出》

ⓔ補足

24《遵者入之禮》位の高い公・大夫が参列する場合（省略)。

25《拝賜，拝辱，息司正》翌日，賓は招待の礼を述べる。主人は司正の労をねぎらう宴を催す。

郷飲酒と少牢饋食の儐尸礼の類似点は以下の通りである。

先ず，少牢饋食の「侑」は郷飲酒の「介」に相当し，両者とも相談で決めることになっている。第二に，郷飲酒では主人から賓への献酒，賓から主人への返杯に続き，主人が賓に酬い，賓は杯を置いて飲まない(17)。これは主賓を尊んで特に重ねて杯を振る舞うが，主賓は遠慮するという構図と思われる。儐尸礼Ⓖ23《主人が尸に酬いる》で主人が酬いた杯を尸は置いて飲まないのも，同じ構成である。第三に，郷飲酒ⓓ20で主人の家臣二人が賓と介に杯を挙げるのは，無算爵(22)で杯が必要だからである。儐尸礼における同様の要素①33《二人の者が杯を挙げ，旅酬を開始す

る》は，尸→主人→侑→賓長→衆賓→兄弟→私人と回される旅酬の前にセットされたため，侑へ送られた杯は無用になり，使われない（後に無算爵で用いると想定はできる）。これは少牢饋食が郷飲酒の要素を取り込んだことを示唆するものと言える。

郷飲酒と少牢饋食の関係については，後者の方が圧倒的に描写が細かいことが指摘できる。例えば，後者では尸，侑，主人らに配分する肉の部位が詳細を極めるが，郷飲酒経文にはその記載はなく，「記」にやや簡略な記載があるだけである（もっとも郷飲酒では犠牲は狗を用いるので，詳しく書きようがないということはある）[16]。少牢饋食の几のどこを持つか(Ⓖ18a)，匕を仰向けにするか俯けにするか(18f)など，手の動きにかかわる細部を郷飲酒は述べない[17]。

一方，儐尸礼における主人から祭祀参加者に対する献杯の儀節（Ⓗ25～31）は郷飲酒には存在しない。この要素が特性饋食ではD三献の後に置かれていたことを考慮するなら，少牢饋食の儐尸礼が，祖先祭祀の一部と生人の饗宴を融合させたような形で設定されたことを，換言すれば，特性饋食と郷飲酒の両者を参照して，後から作り出されたことを示すと考えることができる。つまり少牢饋食は，特性饋食の祖先祭祀を構成する諸要素を祖先の霊を中心とする要素と，生者間の饗宴の要素に分け，後者については郷飲酒礼を参考にして再構成していったのであろう。その構成において主要なテーマになったのが上下関係であり，特性饋食の祖先祭祀における親族関係の要素をできる限り排除し，身分の違い，主人と家臣の関係，主人と同僚との関係を際だたせる儀礼として設定したと推測できる。

（七）まとめ—少牢饋食儀礼編纂者の戦略

特性饋食と少牢饋食で最も違っているのは，主人の地位の性格である。前者では，主人は親族集団の長として祖先の恩寵を得ること，祖先と親族の仲介者となることで，その権威は裏付けられた。少牢饋食では正祭と儐尸の二段構成としたことで，強調点は主人の地位の高さに移動し，親族集団の長としての側面は殆ど捨象されている。つまり，少牢饋食の儀礼編纂者は，大夫の祖先祭祀を構想する上で，祭祀主宰者が高位である以上，その重点は親族関係ではなく，身分関係や君臣間系の表示にあると仮定したのであろう。

このことは二つのことを意味している。第一に，祖先(死者)ならびに祖先の背景にある祖先の宗教的力が棚上げされていることである。もちろん祖先祭祀である以上，祖先の要素が消滅するわけではないが，祖先とつながることで恩寵を獲得するという宗教的機能の側面は希薄化し，社会的上下関係の表示機能の方が前面に出てくるということである。親族関係が重視されてないのは，戦国時代において既に大規模な父系親族集団が弱体化しており，祖先祭祀の親族関係表示機能が現実的ではなくなっていたからかもしれない。つまり，戦国時代における親族集団の崩壊と，それに伴う祖先のリアリティの喪失が，少牢饋食の構成に反映している可能性がある。そのような時代状況の中で，編纂者は高位の祭祀主宰者という政治的な権威を表示する場として祖先祭祀を構想したのであろう。主人の政治的権威の下に，賓，兄弟，私人はそれより下の階層的身分秩序の中に位置づけられ，主人の権威下の集団内のヒエラルキーが強調されていると考えることが可能である。

従って，儀礼編纂者が少牢饋食の祖先祭祀を構成するに至る道筋は以下のように仮定できるの

ではないか。第一に特性饋食の祖先祭祀（編纂者たちが「士」階層の祭祀と考えたもの）に対する分析を通し，儀礼全体に通底するシンボリズム，儀礼の核としての主人の地位，宗教的意味と社会的機能の二面性が存在したことを認識し，第二にその認識に基づいた上で，「士」よりも上位である「大夫」の祖先祭祀を構想するにあたり，宗教的意味よりも社会的機能（身分的秩序）を優先させるような形で，組み替えと操作を行った，と。であるとするなら，それは古代的な祖先祭祀の背景にあった親族構造が形骸化している状況に対応し，その意味を読み替える作業であったとも言い得るであろう。

註

(1) 磨咀子６号墓の下葬自体は王莽期もしくはそれ以降だが，同墓の竹簡中に「河平□[年]」の紀年がある（28～25BCE。甘粛省博物館・中国科学院考古研究所編『武威漢簡』，文物出版社，1964）。

(2) 士虞礼とは埋葬が終わり，家に帰って死者の霊を迎える儀礼で，死者の尸に薦めるのに豚を用いるが，豚を屠る時に廟門の南で足を西にする。一方，特牲饋食の場合，豚は足を東にし，方向が逆転する。これは祖先祭祀は「吉」であるのに対し，虞祭が葬送儀礼の一部で「凶」であることを象徴的に示すためである。

(3) 鄭玄『三禮目録』「（少牢饋食禮）諸侯之卿大夫，祭其祖禰於廟之禮。羊豕曰少牢。」有司徹「若不賓尸」鄭注「不儐尸，謂下大夫也。其牲物則同，不得備其禮耳。舊説云，謂大夫有疾病，攝昆弟祭。」

(4) 被錫（ひせき）の「錫」は「鬄（ひ）」に，「被」は「髪」に通じ，髪が少ない時に増毛するものである。

(5) 食事にあたり，その一部分を除き，食べずに残すこと，もしくはその象徴的動作を「祭」と言う。墮祭（挼（だ），綏（すい）などとも記される）は「祭」を食器の間の空間に落とすこと。それに何の意味があるのか，議論は多いが，良く分からない。

(6) 肺には祭るための祭肺（切ってある）と食べるための挙肺（食べやすいように切り込みが入れてある）がある。

(7) 食べる前に食物を振って，神(?)に供えるふりをすること。墮祭(綏祭)が実際に食物を地面に落とすのと較べると，省略形であると思われる。

(8) 鄭注「尸自此答拜，遂坐，而卒食，其閒有不啐奠，不嘗鉶，不告旨，大夫之禮尸彌尊也。不告旨者，為初亦不饗，所謂曲而殺。」「曲而殺」とは，賈公彦の『儀礼疏』に依れば，鄭玄は尸が觶を飲み，旨いと告げるのが本来の礼であるが，それだと君主の礼と同じになるのを憚り，省略すると考えていたことになる。

(9) 鄭玄は西側南が上佐食，その北隣が賓，東側北が下佐食，その南が賓とする。鄭注「則一賓在上佐食之北，一賓長在下佐食之南。」

(10) なお，この部分の経文は「房中之羞」「庶羞」というのみで，その内容は鄭注に基づく。鄭玄の根拠は『周礼』籩人であり，孫詒讓『周礼正義』に依るなら，糗餌は穀物を粉にして蒸したもの，粉餈は水を加えこねたものである。

(11) 最初に兄弟後生者が北面，兄弟長がその西におり，ここで兄弟長が東で，兄弟後生者が西（東

面）であるのは，鄭玄に依れば，兄弟長が南面で答えれば，主人の視界を遮るからである。

(12) ちなみに鄭玄は，儐尸礼は祖先の霊に対する「祭の象（かたち）」を備えているから陽厭は必要ないとし，儐尸の礼を純然たる生人の間の饗宴であるとは見ていない。有司徹・鄭注「賓尸，則不設饌西北隅，以此薦俎之陳有祭象，而亦足以厭飫神。」

(13) 鄭注「兄弟長幼立飲，賤不別。大夫之賓，尊於兄弟。」

(14) 鄭注「大夫禮，四人餕，明惠大也。」また賈疏は『禮記』祭統「凡餕之道而興施惠之象也，是故上有大澤，則惠必及下。」を引用する。

(15) 鄭玄『三禮目録』「諸侯之鄉大夫，三年大比，獻賢者・能者於其君，以禮賓之，與之飲酒。」

(16) 鄉飲酒・記「其牲狗也。……賓俎，脊・脅・肩・肺。主人俎，脊・脅・臂・肺。介俎，脊・脅・肫・胳・肺。肺皆離。皆右體進腠。」

(17) 但し，鄉飲酒「右手取肺，卻左手執本，坐，弗繚，右絶末，以祭，尚左手，嚌之。」（ⓑ４）では，肺を取る時の動作について手の動きを記載する。

表一　正祭において鼎に盛る肉の部位と数

	前脚			後脚			脊（背骨）			脅（肋骨）				腸	胃	肺	
	ケン 肩 かた	ヒ 臂 ひじ	ジュ 臑 すね	セン・シュン 膊/肫 またぼね	カク 骼/胳 うしろあし	コク 觳 あしのこう	セイセキ 正脊 まえせぼね	テイセキ 脡脊 なかせぼね	オウセキ 横脊 うしろせぼね	ダイキョウ 代脅 まえろっこつ	セイキョウ 正脅 なかろっこつ	タンキョウ 短脅 うしろろっこつ	ヒ 髀 しりにく			離肺 挙肺	切肺 祭肺
羊鼎/俎（右胖）	1	1	1	1	1		2骨	2骨	2骨	2骨	2骨	2骨		3	3	1	3
豕鼎/俎（右胖）	1	1	1	1	1		2骨	2骨	2骨	2骨	2骨	2骨				1	3
膚鼎/俎	豚の首の皮９枚																
魚鼎/俎	鮒１５匹																
腊鼎/俎	麋の乾肉、一頭まるごと																
肵俎	羊と豚の心・舌																

表二　儐尸礼においてそれぞれの俎に盛る肉の部位と数　（右は右胖を、左は左胖を表す）

	前脚			後脚			脊（背骨）			脅（肋骨）			膚	腸	胃	肺	
	肩	臂	臑	肫	胳	觳	正脊	脡脊	横脊	代脅	長（正）脅	短脅				挙肺	祭肺
①尸羊俎	右１	右１	右１	右１	右１		1	1	1	右１	右１	右１		1	1		1
②尸羊湆俎			折				1				1			1	1	1	
③尸豕俎	右１	右１	右１	右１	右１		1	1	1	1	1	1	5			1	
④侑羊俎	左１			左１			1			左１				1	1		1
③侑豕俎	左折						1		1	左１			3				1
⑤主人羊俎																1	1
②主人肉湆俎		1					1			1				1	1	1	
③主人豕俎		1					1			1			3			1	
⑥主婦俎			左１				1			1			1（豕）	1	1	1（羊）	
③尸魚俎	５匹																
③侑魚俎	１匹																
③主人魚俎	１匹																

The Ancestral Rite in the Shaolao Kuishi 少牢饋食 Chapter of the *Yili* 儀礼

Masaru IKEZAWA

The present article discusses the ancestral rite described in the Shaolao Kuishi and Yousi Che 有司徹 Chapters of the *Yili*, comparing it with that of the Tesheng Kuishi 特牲饋食 chapter. The Tesheng Kuishi chapter describes the ancestral rite of the *shi* 士（“gentlemen”）class of people, while the Shaolao Kuishi chapter deals with the *dafu* 大夫（“ministers”）class. The differences in ritual scenarios between them are as follows. First, the emphasis of the Tesheng Kuishi is on the blessings of an ancestor that are distributed by the host（*zhuren* 主人）, among paternal kin（*xiongdi* 兄弟）, and guests（*bin* 賓）, through mutual toasting of wine. In the Shaolao Kuishi, participants do not have direct access to the blessings of the ancestor, who is acted by an impersonator（*shi* 尸）, because the elements of the banquets are separated from those of the offerings to the ancestor as they are placed in the latter half of the rite. The cups of wine do not represent the ancestral blessings carried by the host, but the host’s own favor. Next, the elements of banquets in the Shaolao Kuishi chapter follow the ritual scenarios of the Xiang Yinjiu 鄉飲酒 chapter, which deals with annual banquets in regional communities. Furthermore, the descriptions of the Shaolao Kuishi chapter are extremely, or almost eccentrically, detailed compared to those of the Tesheng Kuishi chapter. These facts mean that the former was edited after the latter. Probably, while working out the ancestral rites of high-ranking officials based on the chapters of Tesheng Kuishi and Xiang Yinjiu, the editor put stress on monarch-retainer relations instead of on the kinship relations. It is possible to suppose that these features reflect the devaluation of paternal kinship groups and the importance of the imperial status order in the Zhanguo period when the *Yili* was edited.